



高等部 全校授業研究会実施

高等部3年の職業科で全校授業研究会が行われました。オンデマンド形式での全校授業研究会にしたため、県外からたくさんの参加がありました。今回は、当日の様子を中心にお伝えします。

高等部3年 職業科 生活マップを作ろう



<授業者のしかけ>

自分の考えや調べたことをまとめやすくするためのワークシートの活用
～休日のスケジュールを立てる際に実際の活動をイメージしやすいように、「どこへ」「だれと」「なにをしに」「なにで」など項目を細分化～



<生徒の様子>

- 項目を細かく分けたことで、休日にやりたいことに友達の発表を取り入れたり、自分の行きたい場所、やりたいことを優先して記入したりなど主体的に考える姿が見られた。

高3職業科2024年10月17日
「卒業後に生かせる宿題を作ろう」～事後半日振り返りシート編～

★ミッション★

今回の「おすすすめポイント」を参考に、休日のお出かけ計画を立ててみよう！

①どこに出かけますか？

②だれと出かけますか？

③なにをしたいですか？

④なにで行きますか？（交通手段など）

⑤何を持って行きますか？

名前 _____



<授業者のしかけ>

自分の考えを話し合いに生かすための工夫
～個別の活動からペアでの活動に～



<生徒の様子>

- 個別に自分の考えや調べたことをワークシートにまとめた後で、ペアでの話し合いをしたことで、お互いが積極的に発言し合ったり、相手の意見を尊重したりしながら話し合いを進めることができていた。



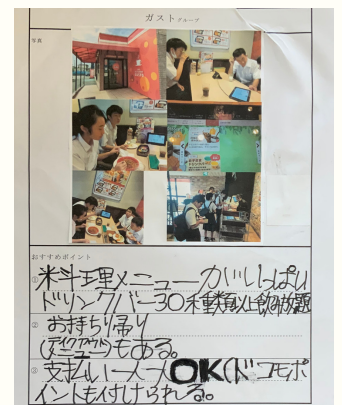
<授業者のしかけ>

写真などを使った振り返り活動の充実
～校外学習での実際の経験を発表活動やスケジュールを立てる活動に生かすために～



<生徒の様子>

- 発表資料の作成や発表の際に、実際に校外学習で経験した場面や自分たちで気付いたところを撮影した写真を振り返りながら発表資料の作成や発表をしたことで、自分たちの伝えたいおすすすめポイントを具体的に表現できる発表になった。
- 振り返りで使用した写真を使った発表を聞いたことで、実際に経験したことを思い出し休日のスケジュールを立てることに生かすことができた。



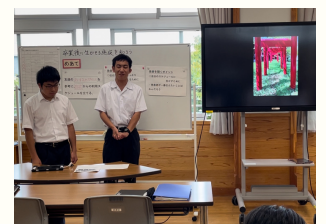
<授業者のしかけ>

教師の例示や生徒の発表場面でのICTの活用
～アプリの積極的な活用や一人一人の考えの共有～

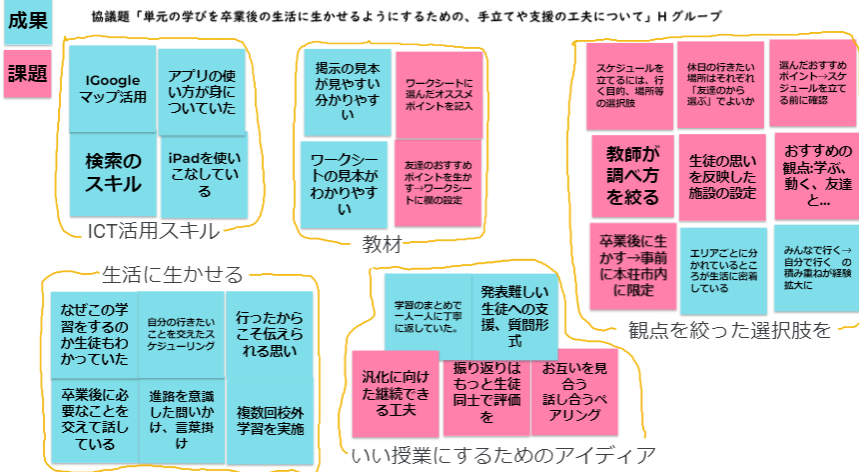


<生徒の様子>

- 検索やスケジュールを立てるためのアプリの使い方を大型モニターを使って教師が例示したことで、自分からアプリを使いスケジュールを立てたり、発表の際の言葉を選ぶために検索をしたりする姿が見られた。
- 生徒の記入したワークシートを大型モニターに表示しながら発表をしたことで、友達の意見のよかったところを取り入れるなど、一人一人の意見を全員で共有できていた。



単元の学びを卒業後の生活に生かせるようにするための手立てや支援の工夫



- 【協議で話題になった主な内容】
- Googleマップを効果的に活用していた。
 - 家庭生活の充実に向けて、地域の施設を知る学習は効果的である。
 - 卒業後に利用できるようにするためにどうしたらいいか。
 - 金銭感覚と余暇のバランス。
 - 今回のスケジュールを実際に試し、気付いたことを共有する。

【今後に向けて】

- 授業の中で動きのある活動内容や、活動量の確保、ワークシートのさらなる工夫をする。
- 教師とのやりとりだけでなく、生徒同士のやりとりや評価ができる授業展開の工夫をする。
- より具体的な想定（場所の近さ、道順、金銭）をして計画をして実際に行ってみる。
- 家庭と連携、情報共有し、実際に過ごした休日の紹介をしてみる。

講評 秋田大学教育文化学部 教授 前原 和明先生

【講評】

- 実態をよく分かっていて、教師と生徒との掛け合いの楽しさが伝わる授業だった。
- タブレット端末のグーグルマップを使う方法が良く、必然性があった。今後の生活を考えてもスマートフォンを使用すると考えられるため、実践に役立つことだと思う。
- 社会的な課題について気付かされた。地方部になればなるほど、保護者送迎が必要だったり、選択肢が少なかったりするものが課題だと思う。
- 社会参加と余暇について考えると、福祉的就労をする中でも余暇が重要。余暇がうまくいかないと離職してしまう。土日に楽しみがなく、家族と過ごすのみで広がりが無い等の課題が挙げられる。仕事を長く続ける上で、余暇が重要であり、余暇についての指導は、繋がりが必要である。
- 調査結果の資料から就労が安定している場合では、同級生とよく飲みに行くという回答があり、就労不安定の場合は、同級生と会うことがないという回答があった。このように生活の安定と就労の安定に繋がりがあると考えられる。
- 余暇の指導内容は好みの活動を選択できること、施設の利用手続きが分かること、生活リズムの安定などがある。卒業した後に余暇の指導が繋がっているかどうかが課題である。余暇の指導は重要だが、十分ではないのではないか。今後の生活の中で使えるようになるために、学校としてできることを考えてほしい。生涯学習に繋げていき、般化や維持、家族との連携、地域との繋がりを考えてほしい。
- 今回の授業は身に付けたことを般化や維持という観点をもって授業だった。行動は複雑で、一つにできない難しさがあり、行動を五つに分けて指導する重要性がある。①どこで②だれと③なにを④どうやって⑤なにをもっていくについて分けて学ぶことが大事である。ただこの順番は、生徒の経験によって変化していくため、このスキルを身に付けられるように生徒の実態に応じて考えてほしい。
- おすすめではなく、自分の行きたいところの変化で、行動の五つのステップは変わる。「状況理解」「維持するための動機付け」も重要であり、工夫していくことで般化や維持に繋がってくると思う。
- スキルの指導になっていないか。卒業後の生活にどのように繋がっているか考え、先への見え方、見通しを教師自身が具体的に指導してほしい。

社会参加と余暇②

	生活安定	生活不安定
就労安定	<ul style="list-style-type: none"> • 同級生と「一緒に飲みに行く」など余暇を楽しむ • 「歌の発表会に出る。練習の時、年下の子の面倒をみるのが大変」など活動の幅や人とのつながりが広がる 	<ul style="list-style-type: none"> • 同級生と会うことはほとんどない。 • 地域に若者が少なく、消防団に入っている人の中で自分が一番若い。
就労不安定		<ul style="list-style-type: none"> • 休みの日などは「家族と買い物をする」ことがほとんどで他の人との関わりはほとんどない。 • 「〇〇さんはどうしていますか？ 〇〇さんは？」「みんなに会いたい」と学校時代の仲間との関わりを求めている。

原田・寺川 (2017)

